

令和4年12月21日

令和4年度第2回学校評議員会（会議録）

1 日 時 令和4年12月15日（木）
17:00～18:05

2 場 所 本校校長室

3 出席者

〈学校評議員〉※五十音順 敬称略
東海林 晃 前札幌養護学校PTA会長
平岡 祥孝 稚内大谷高等学校長
吉本 勝 東米里町内会長
〈学校職員〉
遠藤 孝一 校長
荻田 英樹 教頭
阿部 真基 事務長

4 欠席者

阿部 陽介 本校同窓会役員
猪ノ口 由美子 本校元PTA会長

5 議 事

(1) 前回の会議後を受けて

前回の会議にて出された意見を元に、学校としての手立ての方向性を説明。了承をいただいた（地域との連携については連合町内会にお話をとおしていただいたことを確認）

(2) 学校経営・学校概況等について

(3) 意見交換 ～次のような質問・意見が出されました。

①学校の現況について

・教頭から学校の現況についての説明。校長より生徒の課題が変化していることについて説明。その対応として、学校の課題解決方法についても変えていかなければならない。現在変えるための手立てを一つ一つ実施していることを説明。具体としては①教育計画と評価の改善②委員会のスリム化と機能強化③「学び直し」の仕切り直し④生徒指導の改善等について述べた。また、生徒が「愛情を感じる指導」を徹底していきたいと考えている。

②委員からの質問について

- ・従前から部活動の加入率の低さが学校課題の多さとリンクしていると考えがどうか。
（校長から）ご指摘のとおり、比例している面はある。現在30%未満のため、35%以上、できれば45%前後くらいまで加入率を上げたい。が、令和8年度の部活動の地域移行の動静を受けて、札幌市内の中学生の部活動加入率が70%程度にとどまっている状況がある。それを考えると対策が必要だと考える。
- ・分掌のスリム化等は良い手立てだと考える。結局少人数で仕事を回しても問題がない。
- ・卒業後の進路について、専門学校はどのような行き先（校種）が多いか。
（教頭から）介護等、実務のものもあるが、美容等、就職のことを考えるとなかなか厳しい校種を選んでいる生徒も少なからずいる。また、声優の専門学校等、自己実現する上で本当に狭き門に安易に行ってしまうケースも少なくない。
- ・（先程のキャリア教育の改善にも通じるが）「進路決定後にこうなっていたい」という意識が低いまま進学しているケースが多いのではないかと。それを丁寧に指導していくことで改善が見られる

(4) その他

第3回開催日については、2月下旬頃を中心に調整を図る。